添付資料

島根原子力発電所　「防波壁」の設置状況

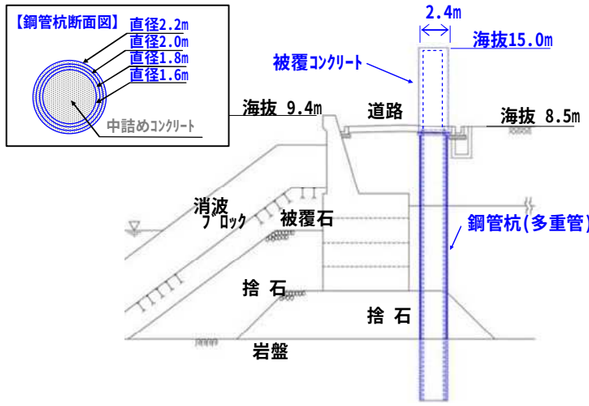
島根原子力発電所では福島第一原子力発電所の事故を踏まえ，津波による敷地内への浸水を防止するため，発電所の海側全域に海抜15mの防波壁を設置しました。

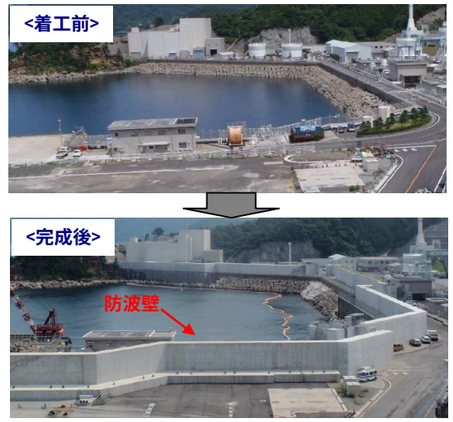
【防波壁設置工事の概要】
- 高　　さ：海抜１５m
- 総 延 長：約１，５００m
- 構　　造：鉄筋コンクリート
- 強　　度：地震(基準地震動)および津波(１５m)に対して必要な強度を有している。
- 工事期間：平成２３年７月～平成２５年９月

■１，２号機北側

護岸沿いの道路背面には発電所設備が配置されており，限られたスペースの中で防波壁を構築する必要があることから，大口径の鋼管杭（多重管）を岩盤まで立て込む多重鋼管杭構造を採用した。

また，荷揚場からの資材搬出入のため，荷揚場の南側と１，２号機北側道路に防波扉を設置した。

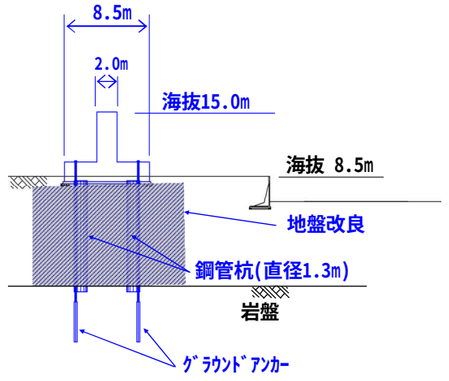


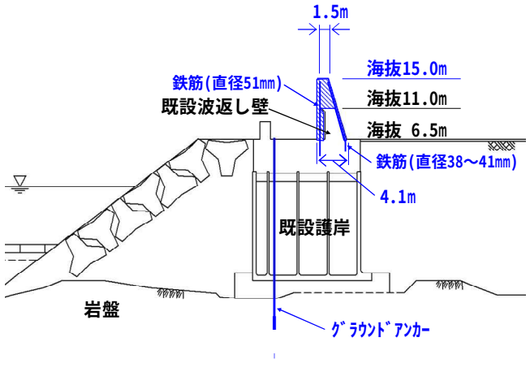
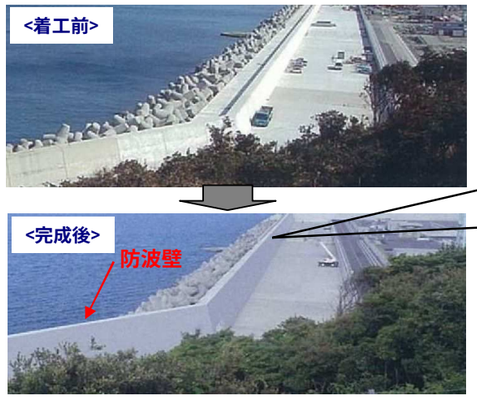
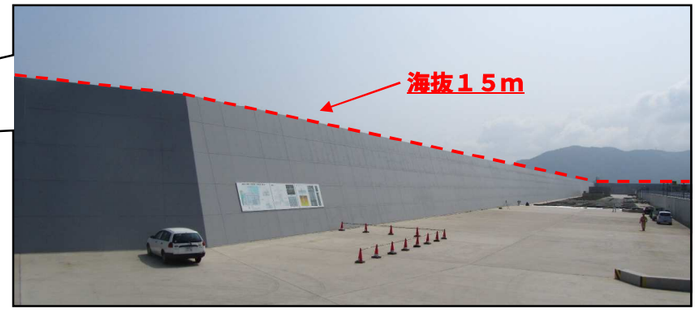


■３号機東側

護岸の背後に比較的広いスペースがあることから，基礎部分が幅広で安定し，鋼管杭を岩盤まで建て込む杭支持式逆Ｔ型擁壁構造を採用した。

また，荷揚場からの資材搬出入のため，荷揚場の北側に防波扉を設置した。



■３号機北側

既設護岸には波返し壁があることから，鉄筋コンクリートによりかさ上げする既設波返し壁かさ上げ構造を採用した。